

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和5年5月15日（月）午後7時00分～8時30分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、渡邊知広委員、内海幸一郎委員、富士伸委員、事務局
欠席者	吉田和江委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 議長あいさつ 2 協議事項 3 その他
会議資料	・定期刊行物 ・資料1「提言書（案）」
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容

1 議長あいさつ

【議長】 一昨年の6月に委嘱を受けた第33期社会教育委員会議は、今日で14回目の開催となる。委員のみなさまのご協力とご尽力に、感謝申し上げたい。提言書について、前回会議でいただいたご指摘に基づいて修正している。本日もご確認いただき、教育委員会へ提出できれば。また、本日が第33期として開催する最後の会議となる。最後に委員のみなさまから一言ずついただきたいと考えているので、ご協力いただきたい。

2 協議事項

【議長】 提言書(案)を確認していく。前回の会議から変更を加えた箇所を主に確認していきたい。事務局から説明を。

【事務局】 5ページ目、「2 富士見市の現状」の最後で、「生涯学習活動を支援する～この2点が求められるのではないのでしょうか。」と述べている。前回、この「2点」がなにを指すのか分かりにくいにご指摘をいただいた。前回までは文章の中で説明していたが、四角で囲み、視覚的に分かりやすくなるようにした。文章自体は変更していない。

【議長】 「つながりを持ちたい、必要だ、～環境を整えること」については、前回は「きちんと」という語を使っていたが、それも不要ではないかというご指摘をいただいたため、削除した。この部分について、なにかご意見のある方はいるか。なければ次に進みたい。

【事務局】 同じく5ページ目、「3-1 3つの観点から見る『つながり』の必要性」の「① 自己成長の観点から」について、後半の文章を変更している。前回までは「レジリエンス」という語を使っていたが、初めて読む人には分かりにくいのでは、というご指摘を受け、表現を改めた。「レジリエンス」という語で表していた意味から外れていないか、ご確認いただきたい。

【委員】 前回の会議で、「レジリエンス」は順応性や受容性といった意味だと確認した。この表現で問題ないと思う。

【事務局】 6ページ目、「3-1 3つの観点から見る『つながり』の必要性」の「③ 『居場所づくり』という観点から」について、最初の文の表現を変更している。前回は「あらゆる立場の人にとって～幸せです。」としていた。「あらゆる立場」という表現についてご指摘をいただいたので、「すべての人」と改めた。また文末についても、他の文章に合わせて変更した。また「3-2 世代をこえる重要性」の「① 『世代間ギャップ』を認め合う」について、文頭の「世代をこえた」は不要ではないかご指摘をいただいたので、削除している。また上から2行目の、「しかし、社会背景や～」の一文について、若干変更を加えている。

【議長】 これらについて、なにかご意見のある方はいるか。また前回の会議では話題にならなかったが、「3-1 3つの観点から見る『つながり』の必

要性」の「③ 『居場所づくり』という観点から」について、最後の3行で居場所の定義づけをしている。この文についてもご確認いただきたい。

【事務局】 また「3-2 世代をこえる重要性」の下の文章について、前回までは「そして、私たちは～」としていたが、議長と相談の上、見出しが変わってすぐ「そして」で始めるのはどうか、ということで、変更している。

【議長】 特にご意見が無ければ、次に進みたい。

【事務局】 8ページ目「4 『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」の「① 諸活動への積極的な支援と広報」について、前回までは「諸活動への積極的な支援」としていた。見出しと本文の内容が合っていないのでは、というご指摘をいただいたため修正した。ご確認いただきたい。

【議長】 7ページ目の「4 『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」の上から3行目、前回までは「前者」という語を使っていたが、指し示すものがなにか分かりにくかったため、ここについても変更している。

【事務局】 「前者」を、「個人の生涯学習活動を通じた居場所づくり」に修正した。

【議長】 なるべく分かりやすくなるよう、修正している。語や表現を変えることで意味が変わってしまっていないか、みなさんにご確認いただきたい。

【事務局】 全体的にはあるが、特に8ページ目「4 『様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり』」の「② オープンな雰囲気づくり」の中で、「重要」や「必要」という語を使いすぎではないか、というご指摘をいただいていた。他の語で置き換えられると判断した箇所については、修正している。また11ページ目の事例2の下の文章について、前回までは「これからはやはり必要とされることでしょう。」としていたが、「やはり」は不要ではないかというご指摘をいただいたため、削除している。12ページ目、事例4について、点線で囲った文の上から2行目、前回までは「私たちの活動は所謂～支えていきたいという思いがある」という文章だったが、前半部分については無い方が良くご指摘をいただいたので、削除している。またこれもご指摘を受け、「子どもたちや世帯を」の後に「身近な地域で」という語を追加している。子どもが参加者としてだけでなく、活動を通して自然と運営側にまわってくれるというサイクルに触れられると良いのではないか、というご指摘があった。これを受け、四角で囲った文章の後に内容を追加した。ご確認いただきたい。

【委員】 この内容で問題ない。

【事務局】 議長との事前打合せの中で、意味を確認しておいたほうが良いと判断した部分があるので、ご確認いただきたい。まず、事例1の「自分の分身」という表現について、これは、後継者の人に自分と同じやり方を求めない、押し付けない、という理解で良いか。また、みなさんこの表現について同じ理解をしたということによろしいか。

【委員】 問題ない。

【事務局】 事例3の下から2行目、「形式的に参加していた」という表現について、団体に推薦依頼があり、それを受けて団体から推薦されて参加した、という理解で良いか。

【委員】 問題ない。

- 【事務局】 委員のみなさん、同じ理解で良いか。
- 【委員】 そのような意味としては理解していなかった。
- 【事務局】 では、表現を変更したい。
- 【委員】 この事例は、子ども大学の例である。子ども大学を始めるにあたり、市内の各団体の代表に参加してもらって実行委員会を組織した。充て職であったため、最初は訳も分からず実行委員として参加していた。それで「形式的に」という表現を使った。
- 【事務局】 最初は団体として呼ばれたので参加する、という受け身的な姿勢だった。しかし参加したい、と自発的に参加した委員と交流することで、触発された、という事例の紹介だと認識している。
- 【委員】 実行委員会組織にあたり声がかかった団体に所属していたため、自動的に実行委員になったということだから、「受動的に」という表現はどうか。
- 【事務局】 「当初から受動的に参加していた実行委員」という案が出た。
- 【委員】 適していないように感じる。
- 【事務局】 そのようには理解していなかった、とのことだが、「形式的に」をどのように読んだか、お教えいただいてもよいか。
- 【委員】 どういう意味か分からなかった。これは市から声がかかったということではよいか。
- 【委員】 所管課である生涯学習課から声がかかった。
- 【議長】 「団体の推薦などで」という言葉を付け加えるのはどうか。
- 【委員】 「各団体の代表として参加していた～」はどうか。
- 【議長】 「形式的に」よりは分かりやすいと思う。では「形式的に」を「各団体の代表として」に変更する。
- 【事務局】 前回の会議から変更を加えた部分は以上になる。
- 【議長】 1 ページ目から 12 ページ目まで、全体を通してなにか気になる部分がある方をご指摘いただきたい。
- 【委員】 8 ページ目の「① 諸活動への積極的な支援と広報」について、これは支援と広報は誰が行うのか。またそれをはっきりさせておいた方がよいのかどうか確認したい。主体が見えにくいと思うが、どうか。「② オープンな雰囲気づくり」や「③ 負担感の軽減」は、活動している人たちが心掛けることだが、「① 諸活動への積極的な支援と広報」だけは、主体が他と異なっているように感じる。「広報」と言われると、もちろん各団体でも行うことではあるが、もっと上からというイメージが強い。
- 【委員】 「広報」ではなく「発信」という語を使うのはどうか。「発信」であれば上から、というイメージではなくなるのではないか。
- 【委員】 たしかに「発信」であれば、活動している人たちの取組も含まれるイメージ。
- 【事務局】 ここについては、もちろん活動されている方たち自身が活動を活発化し、情報発信を行っていくことが大切であるし、社会教育であるから、行政も一緒に盛り上げていく必要があるのではないかと、ということ述べたかった部分。前回までの会議で、委員から、こういった活動にあまり興味関心のない方に対して働きかけるのも大切だが、活動に積極的な方達に対しての支援や、情報の発信をすることも大切ではないかという意見

をいただいていた。行政が生涯学習活動や社会教育活動を勧めるより、市民の方達が楽しく活動している姿を見てもらう方が、よりよい啓発になるのではないか。活動している方達が、人を巻き込んでいくパワーが一番持っているのではないか、というご意見だったと理解している。そのご意見を受けて、各団体に活発に活動してもらうことはもちろんだが、行政も一緒に活動を盛り立てる姿勢を持つことが必要ではないか、ということ述べている。

【委員】 「発信」という表現は良いと思う。例えば委員は子ども食堂の活動をされているが、活動を発信する手紙などは出しているか。

【委員】 出している。やはり、必ず自分たちでも情報発信は行う。それを行政に取り上げてもらうと「広報」になるのではないかと思う。

【委員】 市民学芸員も資料館だよりの作成に協力して情報を発信している。人材バンクも、広報紙「登録者のわ」を自分たちで作成し、発行している。

【委員】 「諸活動の発信と行政の積極的な支援」という見出しはどうか。

【議長】 これまでの委員のご意見から、その見出しが適切かと思う。他に何かご意見のある方はいるか。

【委員】 7ページ目の下から4行目、『『ここにいてもいいんだ』と思える居場所が』とあるが、「居場所を」の方がよいのではないか。

【事務局】 ご指摘のとおり修正する。

【委員】 12ページ目の、事例4の下、上から4行目、「活動が何年かに渡ると」とあるが、この場合はこの漢字による表記ではなく、平仮名かもしくは「亘る」の方が適切ではないか。ただ「亘」は常用外だったと記憶している。確認していただきたい。

【委員】 「何年か続くと」でどうか。

【事務局】 ご指摘の通り修正する。

【議長】 では、最後に修正点を確認したい。4点あったかと思う。

【事務局】 ①7ページ目下から4行目

修正前『『ここにいてもいいんだ』と思える居場所が』

→修正後『『ここにいてもいいんだ』と思える居場所を』

②8ページ目の見出し

修正前「① 諸活動への積極的な支援と広報」

→修正後「①諸活動の発信と行政の積極的な支援」

③11ページ目事例3の下から2行目

修正前「当初から形式的に参加していた」

→修正後「当初から各団体の代表として参加していた」

④12ページ目事例4の下、上から4行目

修正前「活動が何年かに渡ると」

→修正後「活動が何年か続くと」

【議長】 以上4か所で間違いはないか。また1ページ目から12ページまでの内容について、ご異議ないか。

【委員】 異議なし。

【議長】 では最後に、13ページ以降にそれぞれ書いていただいた内容についても、それ以外の内容でも構わないので、みなさんから一言ずついただ

ければ。第33期の社会教育委員会議についての感想でもいいし、また今期で任期満了となる方もいるので、これまで社会教育委員として活動されてきた感想でもいいので、お一人ずつお話しいただきたい。

【委員】 第33期から初めて社会教育委員に参加した。社会教育について、言葉としては知っていたつもりだったが、全然わかっていなかったということを知ることができた。毎回会議に参加させていただく中で、私自身は地域で活動はしていないので、委員のみなさんがそれぞれ地域で活動されていることがあり、それぞれのご経験や思いをもってお話しされているのを伺って、大変勉強させていただいた。第34期も務めさせていただくことになったので、今回の気付きを生かしていきたい。

【委員】 自分の立場からすると、日頃から地域のみなさんの声や情報をキャッチできるように、アンテナを高くして、そこで得られた情報を日々の教育活動や学校運営に生かしていかなければならないとは思いますが、コロナ禍の中ままたまならない状況が続いていた。社会教育委員会議に参加するという機会をいただき、改めて、様々な気付きを得ることができた。子どもたちが様々な方達に支えられながら成長していつているのだということ。地域で育った子どもたちが大人になった時に、後に続く子どもたちを育てる立場にいかにかスムーズに移行できるかが大切だということ。地域のみなさんの為に汗を流せる立場になれるような子どもたちを育てること。これらのことを意識して、子どもたちの育成にあたらなければならないと感じた。やはり、卒業していつている子どもたちや、中学1年生になった子どもたちの様子を見ていると、多様な他者との交流機会が圧倒的に不足しているように感じている。そう考えると、小学生の時期から、いかに地域のみなさんや、様々な立場の大人のみなさんと交流する機会を創っていつてあげるかということがとても大切だと感じている。また、その子どもたちが大人になった時のことを考えても、学校教育の中で工夫して取り組めることはないか、今後も考えていきたい。委員のみなさまも、なにかお気付きの点があれば、ぜひ学校までご連絡いただけるとありがたい。私も積極的に地域活動に参加していきたいと思うので、イベント等あればお声がけいただければ。

【委員】 私は今、大学でICT活用を担当している。文部科学省の方との話し合いの中で、ICT活用の最終的な目標は、恐らく天気予報だという話になった。ICTを活用することで、自分がどんなことができるようになるのか。なにが課題で、その課題に対して取り組むと将来自分がどうなるのか。天気予報ができるのも、今までのビッグデータがあり、その過去のデータに基づいて台風の予報などを行っている。教育の中には今までなかったが、ビッグデータ化して、子どもたちに自分の伸びが分かるようにする、という活用方法を考えている。しかし学生には、対面の重要性も伝えている。子育てや教育はAIにはできないことであり、人と人とが顔を合わせて、教えてくれる人、係ってくれる人が笑顔に向けてくれることが一番の喜びである。人と人とが係わり合う時間よりも、タブレットや液晶を見ている時間がはるかに長い今、委員のみなさんのような、地域で活動をされているみなさんから学ばせていただけたことは、

本当にありがたかったし、これからの世の中で、守っていかなければいけないところなのではないかと感じている。学生も色々な場面で富士見市のイベントなどに参加させていただいている。今後ともご協力いただければ。

【委員】 3期6年間、社会教育委員を務めさせていただいた。この6年間で、3つのテーマを話し合ってきた。どのテーマも、大変勉強になった。今期のテーマについても、ちょうどコロナがあったので、これから私が生きていく上でも、どうやって地域とつながりを築いていくか、色々考えるきっかけになった。こういった審議会の委員を引き受けると、いつも後悔していたが、こういった場に参加しなければ出会えなかった方達や、伺えなかったお話があり、参加して本当によかったと感じている。

【委員】 私も6年間委員を務めさせていただいた。長いようであつという間の6年間だった。多少は地域でボランティア活動をしているが、委員のみなさんのような人と接する機会はなかったのも、とても有意義な時間を過ごすことができた。会議に出ることが最初は辛かったが、たくさんの人に支えられて、段々と楽しめるようになった。多少の後悔はあるものの、会議に出席することで、充実した時間を過ごすことができたのでよかったと感じている。提言書が少しでも地域のみなさんのためになったら、また少しでも多くの人に読んでもらえたら、嬉しいと思う。

【委員】 6年間、本当に多くのことを話し合ってきた。社会教育委員をやってもらえないかと声をかけられたときは、ちょうど子ども食堂を立ち上げてしばらく経った時だった。公民館運営審議会の委員や、公民館だよりの編集委員を務めていた時に、社会教育について勉強させてもらっていたつもりだった。過去学んだことを思い出しつつ、社会教育委員会会議に参加することができ、楽しかった。社会教育という言葉に古臭さを感じている人がたくさんいるようだが、富士見市の社会教育は頑張っているということは他の自治体に行った時によく分かるので、これからも社会教育を盛り立ててほしいし、私も自分の立場から盛り立てていきたいと思う。社会教育という言葉が無くても、今回まとめた提言書にあるように、一人ひとりができることをやっていけば、みんなとつながって、誰かのためになったり、自分のためになったりする。それが地域社会の中で、うまく機能すると良いのかなと思う。会議に参加することで、たくさんつながりを築くことができた。社会教育委員という立場は離れるが、またみなさんにお力添えをいただきながら、色々な活動に取り組んでいきたいと思う。

【委員】 一番の感想は、「すごいな」ということ。また「もったいないな」とも感じた。委員のみなさんのように、地域でこんなにもエネルギーを持って活動している人がいるなんてすごいと思った。もったいないと感じたのは、それを知らない人が本当に多いということ。2年間参加させていただいて、良い出会いや気づきがあったので、私にできることであれば協力していきたい。

【委員】 私は活動する社会教育委員としてやっていきたいと考えていた。令和元年度、ウェスタ川越で関東甲信越静社会教育研究大会が開催された。そ

の時に、私と議長は、入間地区社会教育協議会の委員だったため、道案内を担当しており、駅で案内看板を持って立っていた。次の開催地である新潟県の担当者の方が、社会教育委員がこんなことまでするのか、と驚いていた。委員というと、意見を言うだけというイメージしかないのではないかと思う。新潟県の担当の方の反応や、入間地区社会教育協議会に参加している他の市町の委員さんを見てもそう思った。年に2回しか社会教育委員会議を開催しない自治体もあると伺っている。入間地区社会教育協議会に参加させていただくことで、他の自治体の社会教育委員の活動の様子なども知ることができ、参加して良かった。富士見市の社会教育委員は、年間でこんなに会議を開催している自治体は他になく、誇っていいと思う。日高市の社会教育委員さんは、行政が開催する会議の場だけでなく、自分達でも研修会を企画し開催していると伺った。日高市の委員がどんな活動をしているのかももっと勉強したいと思ったが、次期委員のみなさんに託したいと思う。

【議長】 私も6年間参加させていただき、最後の2年間は議長を務めさせていただいた。今委員のみなさんにお話しいただいたことは、私もまさに言いたいと思っていたこと。入間地区社会教育協議会に出席すると、いかに富士見市の社会教育委員が熱心か、ということがわかる。また今回の提言書をまとめるにあたっては、事務局にご尽力をいただいた。本当に感謝したい。あとは、いかに外に向かって発信していくか、ということが大切になってくると思う。来月からは、社会教育委員という立場は離れるが、今までやってきたことを、他の市民の方に伝えていきたいと思う。委員のみなさんには、コロナ禍の中にもかかわらず、会議に集まっていたいただき、話し合いをしていただいた。今回の提言書のこの重みを、これから色々な方に伝えていけたらと思う。もっとざっくばらんな会議にしたかったが、私の力不足で話したいことが話せなかったという委員もいらっしゃるのではないかと思う。これから各委員、様々な場で、また来期以降も委員を継続される方については、これからも社会教育委員会議を通して、富士見市の社会教育を盛り立てていただければと思う。

3 その他

【議長】 5月29日に、今回の提言書を教育長へ提出させていただく。